

(卯月廿六日附溫井景隆消息參照。)

【栗棘庵文書】

二三八一

向々御寺納之儀、從賴候者モ堅被申付、如形相調渡被申候。併京着之儀可有如何候哉。以上。

改年之御慶珍重々々、猶更不可有盡期候。仍而去秋者爲御使者、富林殿被差下ニ付而、尊書殊更五明貳本被懸御意候。每度御懇之儀忝令存候。將亦御寺納之儀隨分申付、代にて半分、米に而半分相調候由、御使者へ渡申候。定様躰可有御口上候。隨而雖些少之至候、青銅貳十疋令進上候。寔表微志計候。爰元彌靜謐之儀候。當年も頓而初秋ニ御使者ヲ可被差下候。相當之儀尙以不可有疎意候。恐惶謹言。

二月廿三日

隆長 在判

栗棘庵

參尊答

織田与三右衛門尉

(上書)

栗棘庵

參尊答

隆長

四 前田氏關係文書

【大野湊神社文書】 石川郡

二三八二

制札

一、當村地下人早々令還住可耕作事。
一、在々へ不謂儀申懸輩於有之者、早速可注進事。
一、所々在所理不盡催促不可有之事。

右條々堅令停止訖。若違背之族於有之者、速可處嚴科者也。

五月二日

(前田) 家 在判

寺中村神主

【氣多神社文書】 羽咋郡

二三八三

以上

年頭之爲祝儀、御祈禱之御札、被并鳥目三十疋到來、祝着ニ候。然者來月御神幸事、如例年可被相勤候。猶期下國之節候。謹言。

正月十九日

(前田) 家 在判

氣多大宮司

櫻井監物承殿

【氣多神社文書】

二三八四

年甫之爲祝儀、牛玉并石花二桶到來候。別而令祝着候。尙期後音之時候。恐々謹言。

正月廿四日

(前田) 家 在印

一 宮

監物殿

【氣多神社文書】

二三八五

已 上

年甫之爲祝儀、書狀并札・守・鳥目三十疋・桶二到來、遠路

祝着ニ候。猶以祈念不可有由斷候。謹言。

正月晦日

(前田) 家 在印

一宮大宮司殿

【氣多神社文書】

二三八六

當社御神幸之事、如例年可被相勤候也。仍如件。

(前田) 筑前守

二月八日

利家 在印

氣多大宮司

櫻井監物承殿

【氣多神社文書】

二三八七

當月御神幸十九日ニ相當之由。任例年早速被取行无候。然者卷數并看祝着ニ候。尙期面之時候。謹言。

(前田) 又 左

二月十五日

利家 在判

氣多